

ケーススタディー

QUEST ワークシートの使用方法を理解するために、ケーススタディーを以下に提示する。ケーススタディーでは、療育センターで提供されている作業療法サービスについて述べている。

施設情報：

対象者：K 市の対象地域に在住の子ども（0～18 歳）
サービス内容：個別訓練，通園（集団），学校・園訪問（巡回・個別訪問）
目的：発達に不安や遅れがある人たちに対して作業療法を実施する
作業療法士の数（常勤・非常勤）：常勤 5 名

QUEST ワークシートを記入する前に、患者に提供する作業療法サービスの強み・機会・弱み・脅威を明らかにするために SWOT 分析が行う。SWOT 分析は、全体的なポジティブ要素と作業療法サービスが直面しているネガティブ要素を理解するために実施される。

SWOT 分析の結果は以下の通りである：

強み	弱み
<ul style="list-style-type: none">・ 訓練室外（集団の中）での子どもの様子がみれる・ 集団生活の中で求められることとして日常生活活動が含まれるので、作業療法が求められる場面が多い・ 地域の保健師や事業所との繋がりが作りやすい・ 集団・個別など様々な症例（診断名・家庭状況）を見ることができる	<ul style="list-style-type: none">・ 医療的ケアの環境（レントゲン）がないので、医療的な検査・介入ができない（他院を紹介する必要性）・ 訓練室のスペースが限られる（最大 2 組程度）→個別訓練の機会が限られる・ 個別対応となるので、外から見えにくい（リスク管理以上）・ 多様な対象者に対して作業療法を提供するためには、知識や経験を要する・ OTR の数が少ないので、先輩 OTR の経験年数も限られている（若手が多い）。
機会	脅威
<ul style="list-style-type: none">・ 研究に携わったり，事例発表などの機会が持てる・ 研修プログラム（特にオンライン）に参加することができる・ 小児の研修プログラムは少ない・ 入職後の教育機会が限られている	<ul style="list-style-type: none">・ 医療的ケアや重度のお子さんを受け入れるサービスが少ない（受け入れが厳しい）・ 情報が溢れていて，母親からのニーズが複雑になってきている・ 地域の子どもの増加し，障害を持った子どもたちの対応が追いつかず，生活しづらそう・ 養護学校が定員をオーバーしていて，重度の子どもも支援級に入っている

作業療法サービスの提供に重大な影響を与える課題に対してSMART指標を作成するにあたり、SWOT分析から以下の課題が特定された。

質の要素	質の課題
適切性	研究参加や事例発表などの機会があるが、小児領域の卒後研修は少なく、職場のOTRの数も少ないので、入職後の教育機会が限られてしまう
持続可能性	人的資源として、子育て世代のOTRが多く、産休・育休を含めた継続的なサービス提供が難しい部分もある
アクセシビリティ	人的（OTR数）・環境（OT室の広さ）の制限から、通園の子ども(200名程度)全てには提供できていない。ニーズのある全ての人には対応できていない。必要性の有無（優先順位）は、医療的に判断されることが多い。放課後や週末などは、希望する人が多いので、予約が取りにくい。
効率性	個別・通園・摂食、訪問など様々な業務があるので、時間を自分なりに効率的に調整して仕事をする必要がある。 子どもは急なキャンセルが多く、スケジュールの急な変更などがある。
有効性	子ども自身の発達なのか、OTの介入効果なのか、その違いが明確に示しづらい 母親のニーズと子どもの状態のギャップがあると、OTRとしてのゴールは達成できていても、母親の達成感は必ずしも一致しない
満足度	子どもの満足度は定量的には測れないため、行動面で評価している。 母親のニーズが達成困難な場合（障害受容との兼ね合いで）、満足感が得られにくい。 母親のニーズ不明瞭だと、満足度を測ることが難しい。
安全性	個別対応となるので、外から見えにくい（リスク管理以上） 遊び（粗大運動）を治療の手段とするために怪我をしやすい

ステップ1：サービスの質に対する期待値の設定

提供するサービスに対して期待されることを、サービス利用者・紹介元・資金提供機関などの視点から挙げなさい。期待値を設定する際の検討事項例をそれぞれの質の要素ごとに示すこと。

<p>適切性： 適切な時期・場所・人に適切なサービスを提供するためには、どのような知識や技能が必要か？</p>	<p>Input: JAOTが実施している新カリに参加する。現職者研修、専門OTの小児関係(特別支援教育・嚙下)に出る。全国学会に参加(JAOT, 発達系作業療法学会, 感覚統合学会, ボバース・ボイタなど)。 Output: 通園の中で親向けに話す→親の会での講演, 学会などでの事例発表をする。 10年くらいのスパンで。</p>
<p>持続可能性： サービスを提供するためには、どのような資源が必要か？</p>	<p>子育て世代のOTRが産休・育休を取りつつも、継続的なサービス提供するための人的資源を確保できている。</p>
<p>アクセシビリティ： サービスを得るまでの流れやその期間、費用の範囲は？</p>	<p>作業療法の処方が出された対象者は、1ヶ月以内に作業療法の予約が取れることが望ましい。</p>
<p>効率性： 資源の活用に対して期待することは(スタッフや設備など)？</p>	<p>自分なりに効率的に業務を調整して、定時内に仕事を終わることが求められる。</p>
<p>有効性： サービス提供の指針となるエビデンスは何か？</p>	<p>リハビリテーション実施計画書の目標を、期間内に達成することが求められる。</p>
<p>満足度： サービスの利用者は何を求めているのか？</p>	<p>リハビリテーション実施計画書の目標に対して、保護者の満足が得られることが求められる。 作業療法プログラムに対して子どもの満足が得られることが求められる。</p>
<p>安全性： 安全性に関連して期待されることは何か？ 安全を脅かす重大なリスクとは何か？</p>	<p>安全性として、下記の順守が求められる： <ul style="list-style-type: none"> ・ 作業療法介入にあたり、対象者が安心して取り組んでいる ・ 安全な環境下で、対象者は治療上のリスクに配慮されている </p>

ステップ2: SMART 指標の作成

設定した期待値に対する結果を評価するための SMART 指標を明確にしてください。

質の要素	指標	SMART指標	質の視点
適切性	有能な作業療法士の存在の有無	<p>Inputとして：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3年目までに新カリ・現職者研修を修了する ・1年に1つは学会に参加する（JAOT, 発達系作業療法学会, 感覚統合学会, ボバース・ボイタなど） ・臨床上必要と思われる研修（IT支援など）に参加する <p>Outputとして：</p> <p>通園の中で親向けに話す, 親の会での講演, 学会などでの事例発表をする(10年目までに)</p>	 構造
持続可能性	長期的に利用可能な資源の有無	継続的なサービス提供するための人的資源を満たしている	 構造
アクセシビリティ	サービスへのアクセスのしやすさ	作業療法の処方が出された対象者が, 実際に作業療法の初期評価を受けるまでの平均待ち日数	 過程
効率性	資源活用の最適さ	自分なりに効率的に業務を調整し, 定時に仕事を終える	 過程
有効性	作業療法目標の達成度	計画書の目標に対する期間内での到達度	 結果
満足度	サービスに対する対象者満足度	<ul style="list-style-type: none"> ・計画書の目標に対する期間内での保護者の満足度 ・作業療法プログラムに対する子どもの満足度 	 結果
安全性	損傷などに至る事故発生度	作業療法介入中の対象者の怪我等のヒヤリハット・有害事象の発生件数	 結果

それぞれのSMART指標と情報源・計算方法・定義・報告を明確にすること。SMART指標は、具体性・Specific、測定可能・Measurable、合意性・Agreed upon、妥当性・Relevant、時宜的・Timelyを念頭において設定すること。

指標:	有能な作業療法士の存在の有無
質の要素:	適切性
SMART指標: Inputとして	<ul style="list-style-type: none"> ・3年目までに新カリ・現職者研修を修了する ・1年に1つは学会に参加する (JAOT, 発達系作業療法学会, 感覚統合学会, ボバース・ボイタなど) ・臨床上必要と思われる研修 (IT支援など) に参加する
計算方法:	参加した研修会・学会の数/年
定義: 新カリ・現職者研修:	県士会が主催する卒後教育プログラム
情報源:	協会website上の会員ポータル

指標:	有能な作業療法士の存在の有無
質の要素:	適切性
SMART指標: Outputとして	通園の中で親向けに話す, 親の会での講演, 学会などでの事例発表をする(10年目までに)
計算方法:	親向けの話や学会発表の回数
定義: 通園の中で親向けに話す:	小グループに対するミニレクチャー
情報源:	年度末の総括

指標:	長期的に利用可能な資源の有無
質の要素:	持続可能性
SMART指標:	継続的なサービス提供するための人的資源を満たしている
計算方法:	作業療法士の人数, 単位数など
定義: 継続的なサービス提供するための人的資源:	職員の定員を満たしているか否か
情報源:	業務記録・管理帳, 総括
対応策:	実習生を受け入れることで新人採用につなげる. コンサルテーションできるベテランの先生を呼ぶ.

指標:	サービスへのアクセスのしやすさ
質の要素:	アクセシビリティ
SMART指標:	作業療法の処方が出された対象者が、実際に作業療法の初期評価を受けるまでの平均待ち日数
計算方法:	作業療法の処方が出されてから初回評価までの日数（日）
情報源:	電子カルテ
対応策:	曜日の固定がある対象者に対しては、複数のスタッフで担当するようにする。

指標:	資源活用の最適さ
質の要素:	効率性
SMART指標:	自分なりに効率的に業務を調整し、定時内に仕事を終える
計算方法:	残業時間／月
定義:	業務（個別・通園・摂食、訪問など）
情報源:	月報（通園への介入、訪問件数、単位数など）
対応策:	キャンセルが出た時に雑務（報告書の作成など）を済ませるようにする。調整業務（通園との情報交換）は、時間が合わないので社内メールを活用する。

指標:	作業療法目標の達成度
質の要素:	有効性
SMART指標:	計画書の目標に対する期間内での到達度
計算方法:	計画書にて記載された目標に対する実行度（10点満点）
定義:	<p>計画書：リハビリテーション総合実施計画書，MTDLPのアセスメントシート</p> <p>作業療法目標：肢体不自由では、患側を使うようになる。IT支援では、スイッチ操作ができるようになる。視線入力評価では、指標に合わせて視線を動かせるようになる，など。発達障害では、特定の道具（ハサミなど）が使えるようになる。運筆で、3指持ちができる，手関節を使える，など。</p> <p>期間：3ヶ月ごとに設定，見直し。担当の他職種（PTなど）と話し合って検討することも。保護者との合意のもと決定する。</p>
情報源:	リハビリテーション総合実施計画書，MTDLPのアセスメントシート

指標:	サービスに対する対象者満足度
質の要素:	満足度
SMART指標:	計画書の目標に対する期間内での保護者の満足度
計算方法:	計画書にて記載された目標に対する満足度（10点満点）の平均
定義:	<p>計画書：リハビリテーション総合実施計画書，MTDLPのアセスメントシート</p> <p>作業療法目標：肢体不自由では，患側を使うようになる．IT支援では，スイッチ操作ができるようになる．視線入力評価では，指標に合わせて視線を動かせるようになる，など．発達障害では，特定の道具（ハサミなど）が使えるようになる．運筆で，3指持ちができる，手関節を使える，など．</p> <p>期間：3ヶ月ごとに設定，見直し．担当の他職種（PTなど）と話し合って検討することも．保護者との合意のもと決定する．</p>
情報源:	リハビリテーション総合実施計画書，MTDLPのアセスメントシート
対応策:	<p>保護者のニーズが不明瞭な場合は，セラピストが説明しても理解が得られにくい，保護者自身の生活に余裕がない場合もあるので書面に提示し，焦らずに寄り添う．</p> <p>保護者が求めるニーズが達成困難な場合，達成可能な目標設定への合意を得るために，医師から保護者に話してもらおうことも有効．</p>

指標:	サービスに対する対象者満足度
質の要素:	満足度
SMART指標:	作業療法プログラムに対する子どもの満足度
計算方法:	子どもの満足している様子の回数
定義:	<p>満足している状態：自発的な行動がみられる，心身ともに安心・安定している</p> <p>子どもの満足している様子：子どもが拒否なく参加・遂行している（自分から手を伸ばす），表情（不安そう，得意げ，安楽），言動（次にしたいことを発言する），バイタル（SPOs，BPなど）</p>
情報源:	診療録（カルテ）

指標:	損傷等に至る事故発生度
質の要素:	安全性
SMART指標:	作業療法介入中のヒヤリハット・対象者の怪我等の有害事象の発生件数
計算方法:	ヒヤリハット・有害事象の件数
定義:	対象者の怪我：医療的介入を必要とする身体的苦痛 ヒヤリハット：有害事象には至らないものの、直結してもおかしくない一歩手前の事象
情報源:	ヒヤリハットシート・事故報告書